

グローバル化における新しい企業効率性基準と利益基準の転換

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

IT システムにおける企業の総括は全ての企業データの管理を統合し、本社における全てのグループの管理をその高い効率性において可能とできるのである。全ての製品と顧客データの一元管理は、その保存とともに、統一 IT システムにおける企業経営を可能とできるのである。

これらは、効率性基準を遥かに向上させ、これらはインダストリー 4.0 とともに、企業経営と生産環境への転換において、高い利益性への転換を実現できるのである。

これらは流通データの管理や、卸環境におけるデータ管理とともに統一システムにおける企業経営への転換は、企業システム化における大きな改善を可能とできるのである。

これらは IT とコンピュータの利便性の大きな向上への西洋社会が明確にその価値をすでに実現しているのである。これらは、日本がコンピュータ社会という現実への理解の欠如を未だ有することと相違すると考える。

グローバル化は、市場の統一性を自由貿易システムとともに、与え、これらは、優れた技術製品がコスト効率性とともに世界における標準化を行うものである。これらは企業が明確に世界基準の受け入れを求められるものである。

これら世界の技術と資本基準の受け入れは、企業のグローバル市場への参加を唯一可能とできる選択なのである。

これらはビジネス環境と社会の革命的転換が、企業という現実における新しい世界の創造において存在するのである。

これらは新しい挑戦者たちが既存世界への戦いを模索していると定義できる。これらは既存の現実を与えるものであり、これら新しい創造性は、必ず企業において理解を要求されるのである。

これら新しい現実は必ず優れるため、その利便性を企業が受け入れることは、新しい企業環境における経営を実現できるのである。